

1 研究の意図

学級には音楽好きな児童は多いが、教師主体の授業実践が多かったため、児童が思いや意図をもって歌を歌ったり、楽器を演奏したりする様子があまり見られなかった。

そこで、歌唱教材において、教師が習得と活用場面を計画的に設定し、児童が課題解決のために試行錯誤しながらグループ学習に取り組めるようにすることで、表現に対する自分の明確な考えや願い、意図をもって歌える児童になってほしいと願った。

2 授業づくりの視点

○音楽活動と言語活動を充実させる

- ・ 共通事項（指導する内容）を感受したことをもとに知覚させていく。
- ・ 課題設定の仕方を工夫し、学習に取り組ませる。
- ・ 課題、練習方法、役割を明確にしたグループ学習を取り入れる。

○教師主体で知識や経験を増やしていく段階と、児童が主体的に知識や経験を活用していく段階を設定する。

3 指導の実際

期間：平成27年10月 題材名：「曲想を味わおう」 主教材：「まっかな秋」（教育芸術社）

題材のねらい：

- ・ 言葉の感じや曲想にふさわしい表現の工夫をして、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする。
- ・ 曲想とその変化を感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴く。

① 音楽歌詞の音読から共通事項の理解へ

十分に音読をした上で、歌詞の中から秋を探した。次に、歌詞から思い浮かぶ様子を想像して話し合い、最後に自分が一番素敵だと思う箇所を考えさせた。児童は、秋の赤色が相乗的に広がっていくことを歌詞の音読から実感した。

その後、児童が抱いたイメージと、楽譜に書かれている共通事項や曲想の変化を重ね合わせた。強弱やリズムが歌詞と関連していることを捉え、これらの要素が音楽を形づくっていることに気付くことができた。そして、児童は上手に歌いたい思いを膨らませた。

② 教師主体で教える学習を計画的に取り入れる

教師主体で教える時間と児童主体の学習活動を計画的に設定した。

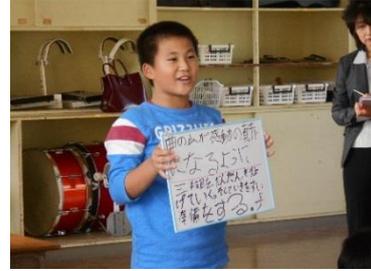
時間	学習内容	児童主体の学習活動	教師主体の学習活動とその効果
1	○歌詞を音読して、言葉の繰り返しや旋律の特徴に気付く。	・ 歌詞を音読して言葉の繰り返しや旋律の特徴に気付き、話し合う。	・ 前半部分の歌い方を教える。 ↓ ・ 思いに近い喜びを味わう。 ・ 課題解決のための学習方法を理解する。練習方法や歌い方が分かる。
2	○曲想を生かした表現を工夫する。	・ グループ学習に取り組む。 ・ アドバイスや評価をする。	
3	○表情豊かに歌う。	・ 前時を生かした課題の設定をする。 ・ グループ学習に取り組む。	・ グループで学習し、全体で共有した部分について教える。 ↓ ・ 児童同士の学習で解決できなかったところが解決できる。

③ 音楽活動と言語活動の充実のためにグループ学習を取り入れる

グループ学習を行うにあたり、次の手立てを講じた。

- ・役割分担…リーダー、記録（拡大楽譜への記入）、音取り（CD操作、鍵盤ハーモニカで音取り）
- ・「〇〇（感受）のように、△△（共通事項）のように歌おう。」という課題の設定
- ・練習方法を示したカードとグループごとの拡大楽譜の使用
- ・i p a dのボイスレコーダー機能を使用した聴く環境の設定

課題解決に向け、練習方法を選択し、役割分担を明確にしながら児童はグループ学習に取り組んだ。約20分間、児童は評価し合い、話し合い、繰り返し歌っていた。児童同士で試行錯誤しながらグループ学習に取り組む姿が十分に見られた。



課題設定：課題解決のための練習方法を選択したり、共通事項を押さえた楽譜に立ち戻ったりした。



グループ学習：輪になって歌ったり聴いたり、楽譜を囲んで意見を言い合ったりすることを繰り返した。



授業の後半：グループで学習したことを発表し、全体で共有し、最後は各自が楽譜に工夫を書き込んだ。

4 成果と課題（○成果 △課題）

- 学習の最後には、グループ学習や全体で共有したことの中から「ここだけはこのように歌いたい」と思う箇所を一人一人が決め、楽譜に書き込んだ。児童の100%が記入することができ、思いをもって表情豊かに歌うことができた。
- 学習の振り返り作文を書かせ、評価した。振り返り作文に、共通事項と感受したことを関連させた記述と、既習内容を生かした練習の過程の記述がある（A評価）児童が50%、上記2つの記述のうち、1つについて書いてある（B評価）児童が50%で、全児童がB評価以上だった。
- 音楽の感受と知覚を十分に行い、教師主体の学習と、児童の主体的な学びの場を意図的に設定することで、児童が問題解決的な学習を試行錯誤しながら行い、考える力が育成された。
- △ 習得と活用をどのように行い、どのような力を付けていくかを、年間指導計画の中で見通して授業に取り組んでいく必要がある。児童の知識や経験がしっかり積み重なることで、A評価の児童が増えると考え。
- △ 「歌いたい」といかに思わせるか、思いと技能の距離をいかに縮めていくか、言葉で表せない部分の評価をどうしていくかを今後の課題にすると共に、音楽的な思考を高めていく方法を今後も追究していきたい。